



# 六小通信

みんなの笑顔が輝く学校～伝え合う楽しさや分かる喜び～

令和4年12月23日  
小平市立小平第六小学校  
冬休み号  
校長 屋代 弘一

【学校教育目標】 ○元気でじょうぶな子 ◎よく考えてやりぬく子 ○仲よくできる子 ○進んで働く子

本年もありがとうございました

校長 屋代 弘一

先日、1冊の本を手に入りました。「親がやったらあかん！」(棚原安子著・集英社)という本です。この本の副題には、「80歳“おばちゃん”の野球チームに学ぶ、奇跡の子育て」と記されていました。

棚原安子さんは、1940年大阪生まれ。ソフトボール選手として実業団でプレーし、1972年に吹田市で少年野球チーム「山田西リトルウルフ」を立ち上げ、全国大会にも出場しています。

棚原さんは、「プロ野球選手を育てるのが目的やない。世の中で働ける子を育てたいんや。」と言っています。ウルフでは、保護者の方によるいわゆる「お茶当番」はありません。小学1年生であっても自分の飲むお茶は自分で用意して、練習や試合が終われば、その水筒は自分で洗います。ユニホームも同様に自分で洗濯して整えるきまりです。また、子供たち全員が当番制で古新聞の回収のアルバイトを行っています。ウルフの運営を支えると共に、貴重な労働体験になっているとのこと。

この本を読み、特に次の2つの言葉が印象に残っています。

「親が先回りしてもろくなことにならない。子供に悩ませ、自分で決めさせるべし。」という言葉と、「体験なくして成長なし！学びの場を与えるのが親の役目。」という言葉です。

私自身の子育ての経験を振り返ると、我が子が転ばないように(失敗しないように)先回り、先回りして過保護になってしまったり、失敗経験はできるだけ回避して、成功体験だけを求めてしまったりする傾向はなかったかという反省が浮かび上がります。

棚原さんは言います。「たとえ試合に出られなくても、悔しい思いを抱きつつも、めげずにがんばることが人間的な成長につながる貴重な経験になります。」

子供たちが体験することの価値を私たち大人が見だし、その価値をしっかりと子供たちに伝える。そして、子供たちは考えながら体験を通して学ぶ。そのようなことが大切であるということ強く感じる1冊でした。

さて、明日から子供たちが楽しみにしている冬休みが始まります。ご家族で1年を振り返ったり、新しい年の目標を話し合ったりするよい機会です。3学期の始業式には、全員の子供たちが新たな気持ちで、元気な笑顔で登校してほしいと願っています。

保護者、地域の皆様には本年も本校の教育活動にご理解、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。ご家族でよいお年をお迎えください。

## 学校閉庁日のお知らせ

1/4(水)は学校閉庁日です。

警備員のみ在勤となります。来校や電話の対応ができませんので、よろしく願いいたします。

## 冬季休業中の留守番電話対応のお願い

冬季休業中、学校に電話対応可能なのは、  
12月26日(月)・27日(火)・28日(水)

1月 5日(木)・ 6日(金)

8時15分～16時45分 となります。

上記以外の日時は、留守番電話となります。緊急の場合は「小平市教育委員会:042-341-1211」にご連絡ください。

冬休みは 12月26日(月)～1月7日(土)

始業式は 1月10日(火) 8:25までに登校

持ち物:うわばき、防災頭巾、雑巾1枚、冬休みの課題、  
筆記用具、連絡帳、ランドセル、マスク

学区内に東京経済大学の陸上部の寮があり、学生が六小周辺の歩道をランニングしています。このたび、子供たちの安全・安心のために万が一の際(不審者やケガなど)の連携をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。ランナーの方々も子供たちの味方です。心強いです。私たちも学生の皆さんを応援しましょう。